






大浦 周	近現代美術	
おおaura いたる	日本とドイツの戦後美術	常設展・収蔵品担当のとりまとめをしています。これまで担当した主な企画展は「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」(2018年)、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(2020年)、「ボイス+パレルモ」(2021年・共同企画)、「Nerhol 種蒔きと烏」(2025年)など。
		


菊地真央	近現代美術	今年度は収蔵作家の山村耕花について調査を進めています。日本画の展示を積極的に増やしていきたいと考えています。
きくちまお		
	日本の近代美術	


五味 良子	近現代美術史	常設展・収蔵品関連の業務を担当しています。
ごみ りょうこ		
	視覚文化交流史	


佐伯 綾希	近現代美術	
さえき あやき	イタリアの近代美術	<p>2020年から近代美術館で勤務し、現在は企画展担当を務めています。</p> <p>これまでに、「美男におわす」(2021)、「シアトル→パリ 田中保とその時代」(2022)、「アブソリュート・チェアーズ」(2024)、「メキシコへのまなざし」(2025)、「コレクションの舞台裏」(2026)などの企画展、および「アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽 遠回りの近景」(2023)に携わりました。</p> <p>2025年にはパリで新たに発見された田中保関連資料の現地調査を行いました。</p> <p>美術作品を通して、世界の多様な見方を伝えられたらと思っています。</p>
		

佐藤 あゆか	近現代美術	
さとう あゆか		
	戦後のアメリカ美術	<p>2022年度より近代美術館に勤務し、企画展担当に所属して2年目になります。今年度は企画展「内間安理・俊子展」のほか、「アーティスト・プロジェクト#2.10 辻梨絵子」の開催に携わります。展示やイベントの企画・実施を通して、より多くの人に美術の面白さを伝えていきたいと思っています。</p>

<p>鳴原 悠</p>	<p>近現代美術</p>	<p>近代美術館を経て、令和8年度より文化財・博物館課 文化財活用・博物館担当に所属しています。近代美術館では、「桃源郷通行許可証」(2022年)「イン・ビトウィーン」(2023年)、「野島康三と斎藤与里 一美を掴む手、美を興す眼」(2025年)などの企画展を担当しました。専門は日本の近現代美術です。</p>
<p>しぎはら はるか</p>	<p>日本近現代美術</p>	
		

篠原 優	近現代美術	
しのはら ゆう		
	近現代美術、西洋美術	<p>近代美術館には2022年度より勤務し、企画展担当に所属して2年目となりました。今年度は主に小村雪岱と磯崎新の展覧会に副担当として関わりつつ、次年度以降の展覧会準備に携わっています。多くの方に美術館へ足を運んでいただけるよう、積極的に普及事業にも取り組んでいきたいと思ひます。</p>

西尾真名	近現代美術	
にしお まな		
	日本近代美術	2024年度に着任し、常設展・収蔵品担当に所属しております。今年度は、MOMASコレクションや他館への作品貸出しのサポートの他、企画展「内間安理・俊子」の副担当を努めます。日本の30-40年代の芸術動向に関心があります。広い意味で埼玉と関わる作家を調査・研究し、将来的には展覧会としてお届けできればと考えています。

平野 到	近現代美術	
ひらの いたる	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	<p>現在は学芸部を統括しながら、さまざまな事業に関わっています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！」(2021-22)、「吉田克朗展 ものに、風景に、世界に触れる」(2024)などの企画展に携わりました。今年度は、企画展「磯崎新の版画」の準備も進めています。</p> <p>新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。</p>
		

吉岡 知子	近現代美術	
よしおか ともこ	日本近代美術	<p>2008年より近代美術館に勤務し、現在は教育・広報担当の統括の仕事をしています。          これまでに「原田直次郎展」(2016年)、「森田恒友展」(2020年)、「メキシコへのまなざし」(2025年)など、主に日本近代美術に関する企画展を担当してきました。          今年度は障害のある方に向けた鑑賞プログラムや、年報、ミュージアム・カレンダーの発行に携わります。</p>
